

らの混合物は、二葉期に市販のモリネートの標準施用と、その後の分けつ中期に落水した水田へのベンタゾンの施用に相当する効果を示し

た。

(財)日本植物調節剤研究協会 技術顧問 金澤 純

雑草を食うずい虫

1964年に、ミズガヤツリをポットに植えて塊茎形成時期を調べていた。秋になったら急にミズガヤツリが枯れ出したので見ると、茎にずい虫がいた。虫害研究室を通して農業技術研究所の専門研究室に調べてもらった。メイガ科の幼虫で、蛾を調べれば同定できるだろうということであった。これはイトトガの幼虫だったようで、これは後にミズガヤツリの生物的防除手段となり得るかに関心を持たれた(坂本ら、雑草

研究16, 1973)。

その後、研究室でタイヌビエの種子生産量を調べた際に、殺虫剤を散布しないとタイヌビエもニカメイガかその近縁のものの幼虫に被害されるのが見られた。この報文の表題は「タイヌビエの種子生産量」であったが、本当は「殺虫剤を散布した場合の」という条件を付ける必要があるのではないかと、同僚と話し合った。

(財)日本植物調節剤研究協会 技術顧問 片岡孝義)

雑草の種子を食う動物

テレビで雑草の種子を貯蔵するクロナガアリの生態を詳しく見る事ができた。昆虫写真家栗林慧氏の撮った映像である(1991年3月11日, NHK, 「地球ファミリー」)。秋に巣穴にメヒシバ・キンエノコロ・スズメノヒエなどのイネ科雑草の種子やキク科雑草の種子を働きありが1日に千数百個も運び込む。クロナガアリのえさは植物だけで、幼虫も働きありの消化液で軟らかくなった雑草の実を食って成長する。

見ていて、以前早春に田にまき散らしたタイヌビエの種子が鳥にきれいに食われたことを思い出した。数アールの試験田にタイヌビエの風

乾種子を春先にかなりの量まいたが、その後この田では雑草が発生しない方がよい試験を行うことになった。どうなることかと心配して代かき前に田面をよく見るとヒエの種子は大抵えいだけが残っている状態であった。田植えをしてからもタイヌビエの発生は特別多くはなかった。ヒエの種子はスズメなどの鳥のえさになったようである。

雑草の種子は耕地やその周辺に多量に落ちるが、鳥や昆虫などの動物の食う量はどのくらいであるのか、見当もつかない。

(財)日本植物調節剤研究協会 技術顧問 片岡孝義)